

PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

2020年2月22日（土）九州・沖縄予選結果

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 九州・沖縄予選 >

◆2月22日◆福岡・福岡国際CC七又C（15-18歳男子6604ヤード、パー72ほかカテゴリー別）

◆出場136人 ◆雨のち晴れ

<九州・沖縄予選 概況>

15-18歳の部男子は、村松陸（熊本・武蔵ヶ丘中3年）が8バーディーを奪い、2ダブルボギー、6ボギーと出入りの激しいゴルフながら2オーバー74で、縄田領一（山口・高川学園高1年）を1打かわしてトップとなり、西日本決勝大会（3月28、29日、滋賀・滋賀GC）に進んだ。同女子は石原渚裳（なぎさ、沖縄・久志中3年）と吉川華鈴（かりん、鹿児島・開陽高1年）が3オーバー75で並び、カウントバックで石原がメダリストになった。13-14歳の部男子は田川隼禎（はやて、沖縄・久志中2年）と小川寿興翔（じゅきと、山口・高川学園中2年）が78で並び、田川が1位通過。同女子は益永彩未（大分・大分中2年）が80で回り、2位に3打差をつけて1位となった。朝にまとまった雨が降り、上がったからは強風が吹く難しいコンディションだった。

西日本決勝大会でIMGA世界ジュニアゴルフ選手権（7月、米国サンディエゴ）の西日本エリアの日本代表が決まる。

<九州・沖縄予選 結果>

西日本決勝大会進出者は以下の通り。

▽15-18歳男子

- 【1位】村松陸（熊本・武蔵ヶ丘中3年）=74
- 【2位】縄田領一（山口・高川学園高1年）=75
- 【3位】橋本侑樹（福岡・東福岡高1年）=76
- 【4位】堺永遠（大阪・ルネサンス大阪高1年）=77
- 【5位】豊田真太郎（熊本・玉名中3年）=78

▽同女子

- 【1位】石原渚裳（沖縄・久志中3年）=75
- 【2位】吉川華鈴（鹿児島・開陽高1年）=75
- 【3位】喜久山紗弥（沖縄・久志中3年）=76
- 【4位】高里由貴子（沖縄・沖縄カトリック高1年）=78
- 【5位】大賀裕花（熊本・熊本国府高1年）=78
- 【6位】大内桜（沖縄・宜野座高1年）=82

▽13-14歳男子

- 【1位】田川隼禎（沖縄・久志中2年）=78
- 【2位】小川寿興翔（山口・高川学園中2年）=78
- 【3位】米誠ノ心（鹿児島・神村学園中2年）=79
- 【4位】高山大維志（山口・高川学園中1年）=81
- 【5位】有園純（鹿児島・日当山中2年）=81
- 【6位】江上敦哉（大分・大分中1年）=82



写真：15-18歳男子1位 村松陸
©IJGA2020



写真：15-18歳女子1位 石原渚裳
©IJGA2020

<九州・沖縄予選 結果>

▽13-14女子

- 【1位】益永彩未（大分・大分中2年）=80
- 【2位】岩本菜乃（福岡・守恒中2年）=83
- 【3位】上村麗子（熊本・津奈木中2年）=84
- 【4位】葎岡ほのか（熊本・八代第六中2年）=84
- 【5位】塚本心々（福岡・久山中2年）=84
- 【6位】冨田有紀（福岡・太宰府東中1年）=85

▽11-12歳男子

- 【1位】外岩戸晟士（鹿児島・志布志小6年）=76
- 【2位】柳井洸祐（大分・南野津小6年）=82
- 【3位】穴井伸直（大分・大分大教育学部付小5年）=83
- 【4位】吉永匡一郎（福岡・江川小6年）=84
- 【5位】長崎煌心（宮崎・住吉南小6年）=84

▽同女子

- 【1位】豊田ヒカル（熊本・築山小6年）=81
- 【2位】松下可育（熊本・龍田小5年）=82
- 【3位】樋口瑚子（佐賀・川上小6年）=84
- 【4位】西川真穂（福岡・別府小6年）=85
- 【5位】嘉村結衣（福岡・南郷小6年）=85
- 【6位】松尾桃子（福岡・警固小6年）=86

▽9-10歳男子

- 【1位】沖田零（千葉・井野小4年）=77
- 【2位】長崎大星（宮崎・住吉南小4年）=79
- 【3位】大町晋太郎（福岡・舞鶴小4年）=89
- 【4位】花田幸之助（福岡・筒井小4年）=91

▽同女子

- 【1位】川部日向（大分・鴛野小4年）=78
- 【2位】鈴木めい（千葉・松尾小4年）=85
- 【3位】吉住百華（福岡・古賀東小4年）=87
- 【4位】外岩戸舞央（鹿児島・志布志小3年）=91

▽7-8歳男子

- 【1位】田村比呂（福岡・福岡教育大付福岡小2年）=78

▽同女子

- 【1位】保科沙輝（長崎・桜町小2年）=95

（注）同スコアの順位は18番からのカウントバックによる。



写真：13-14歳男子1位 田川隼禎
©IJGA2020

<PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 九州・沖縄予選>

◇15-18歳の部男子◇2月22日◇福岡・福岡国際CC七又C（6604ヤード、パー72）

トップで西日本決勝大会（3月28、29日、滋賀・滋賀GC）に進んだ村松陸（熊本・武蔵ヶ丘中3年）は「バーディー8個取ったんですけど…パーは2つだけでした」と苦笑いした。スタート時点では雨、途中から晴れて強風と難しいコンディションも影響して「フォローのホールでうまく飛ばしてバーディーを取ったけど、アゲンストのホールでは力が入ってしまっ」と、2ダブルボギー、6ボギーと出入りの激しい一日だった。昨年も西日本決勝大会に進んだが「あの時は高い弾道の球を打っていて風に対応できずにいいところなく敗退。弾道を低くするスイング改造に取り組んで「ようやく慣れてきた」という段階で、感触はつかんだ。「今日はバーディーは取れた。決勝大会まで風に負けない球を磨いて、強い人たちに負けないゴルフをしたい」と、2つの「負けない」で世界ジュニア代表を目指す。

<PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 九州・沖縄予選>

◇15—18歳の部女子◇2月22日◇福岡・福岡国際CC七又C（6133ヤード、パー72）

石原渚裳（なぎさ、沖縄・久志中3年）が3オーバー75で並んだ吉川華鈴（かりん、鹿児島・開陽高1年）をカウントバックでかわして、トップで西日本決勝大会に進出した。「バーディーは出たけど、ボギーも出る荒れたゴルフだったです」と振り返った。インスタートの11番で2メートルを入れるバーディーが先行。16番ではアゴが高い手前のバンカーから20ヤードが直接入ってバーディーを奪った。「連続ボギーの後で『ああ、ただめか』と思ったけど、入っちゃってうれしかった」という。練習ラウンドはしておらず、ぶっつけ本番。ブラインドで打ちどころが分からないホールが多かったが「コーチから『迷ったらまっすぐ打て』と言われていたんで、それを守りました」という。「去年の西日本決勝大会はめちゃ悪かった。苦手なショートアプローチを練習して、リベンジしたい」と意気込んでいた。

<PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 九州・沖縄予選>

◇13—14歳の部男子◇2月22日◇福岡・福岡国際CC七又C（6604ヤード、パー72）

6オーバー78で回った田川隼禎（はやて、沖縄・久志中2年）がカウントバックで小川寿興翔（じゅきと、山口・高川学園中2年）をかわして、1位で西日本決勝大会に進んだ。1番でダブルボギー発進になったが2, 4, 5番と取って盛り返した。「でも9番のパー3で風にもって行かれて右のバンカーに入れてトリプルをたたいてしまったのが反省」と、振り返った。それでも、前後半を38、40とスコアをまとめられたことには納得していて「最近前後半の波が激しかったし、今日は風があった中で安定したから、いいスコアだったと思います」と笑顔も見せた。「今年はこのカテゴリーでは年長なので（世界ジュニアを）狙うしかないと思っています」と意気込む。西日本決勝大会へ向けては「バーディーは取れるので、ボギーを抑えられたら。うまい人がいっぱいいると思うけど、細かいミスをなくしてアンダーで回って優勝したい」と、初の世界ジュニア代表を狙う。